（十七日夕刊）
磐城新聞

休刊　大祭日　第一　第三日曜
定價　一部二錢　一ヶ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　鹽澤龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六番

「海に思ふ」□□□

田母神昇

人々簇りて海に入り
快き午後の水浴をたのし
む
輝く青、搖るゝ黄金、波
を切る微風
人々水にありて一樣に親
笑す

折りに觸れては、清新と優雅のきこい高き、柳澤健氏の詩に懐しむ時、海水浴の一詩は何と溌溂として居る事よ。其の度に、私は必ず。水戸に遊學して居た頃の、思ひ出の絲をたぐつて見るのでした。

朝早くから喧操しく、呻吟する蟬の聲をきゝつゝ、朝の散歩にいそしんだ、あの散歩もいゝだろう、でも私には其の頃初夏の夕べと夏、朝露の色褪せぬ、朝の散歩が好きだつた。

其の日も、同じコースを辿る時、いつも通る緑青蒼たる稲荷神社の境内に、置き忘れられた樣に深い眠りに落ちて居る、鞄をみとめたのはなんの氣なしに眺めた時、私の心を強く刺戟したのは、南無阿彌陀佛と筆のあと鞄の色の褪せし樣

唯事ならんと知つた時、疾走して行く水濱電車を見て頸をひねつて見たものだ。

まざ〳〵と投身自殺を思はせたから、まだ其の人が物の蔭から私を覗いて居る樣に、うす氣味惡くなつて交番にかけ込んだものだ。

その日の午後に、電波の樣に傳はつた、海水浴場の椿事、狂人的に、着の身着のまゝ、あたりに人なきが如くに、深みにはまつて行く者……を、訝しみつゝ巡査が拘引して行つたそうな

あの鞄を其の人とに離れ得ぬ思ひはしても、遂にその一事は知らずにしまつた。

夏の事、今年の海を眺めつゝ、私は一人で思つて見た……けど、又同じ幾代の海水浴の一節に

挑むたの幼兒は水の面を貝殼の如く光り
花の如くましろき母の裸身にまつはる
たゞ母の裸身を激してゆするは唯ぞ
うねり來る波か、纏ふ幼兒か、傍らの父の微笑か
勇壯な海の音樂と波の伴奏に歡笑しつゝ泳ぐ人々のエックスタシーを思はせる時、まき起つたと言ふあの騷ぎ。

「狂人」かと思はぬ人もなかつたろう、眞夏眞晝間の人出時潮に乘つて行こうとは。

だが、彼の心情は幾何か哀れにも消れて行かんともした、そのいきさつもまだ哀れ、金に困つた末だとか……たう、花き身ながらに。

私も雑氏と同じ人で、踊きの去つた海濱に誦つて見たい氣持……出掛けたもんだ……

だが其の時は濱には灯ども、海も浪もは、妙なる樂を奏しつゝあつた

泳げ泳げ冷たき波に打たせよ肌
さらせよと思ひ
海上の七月、あらゆるものの黄金に光りて皆笑ひ

明日の吉凶

舊暦六月二十二日　新暦七月十八日

▲一白の人　希望は達せらるゝど失費は有りと知るべし▲二黒の人　共同事業に手を出ん時は意外の損失を招く▲三碧の人　取引き交際に心を配り拔目なく働くが吉▲四綠の人　大望を企つるよりも整理するが勝なるべし▲五黄の人　大石道路を塞がば廻りて通れ退は一日の損▲六白の人　先にのみ走りて跡の始末を忘れぬ樣すべし▲七赤の人　物事永引くども心を緩めず勵めば必ず成る▲八白の人　生業は思ひの外言けれども投機には大凶日▲九紫の人　心を大海の如くし小故を捨て大勢に從ふべし

豫告!!!

講談　赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光畫

元祿の快擧は、今も尚、人の頭に勇壯な氣分を植付けつゝある將來も永遠に快擧は勇壯な氣分の源泉となるであらう。其の四十七士中曲折多樣にして變遷の運命の奇なるものは堀部安兵衛武庸にしくはない。取分け彼が浪々の身を、三尺二寸の秋水赤鞘に托した時代ほど、勇壯な氣分の横溢したのはないのであつた新講談界の巨星桃川燕二氏此の人物を起して縦横に活躍せしむ、其の昭和の新時代の新味ある讀み口は、讀者の心琴を打つて共鳴を得る事疑ひない更に田村月光畫伯の洗練された麗筆は、紙上に光るであらう　（百六十回）

愈々明日より掲載!!

講談　高山彦九郎　(190)

中西洋々作
市施長春畫

狂及割腹

「いやそれはお爲に宜しうござらぬ」

その熱心な嘉膳の言葉にも耳をかさず。向紙を破る手をやめませんでしたが

やがて最後の一枚を破りすてたとき。

「たゞ、これですべての決算は終つた？」

何かを呪ふやうな、また自ら嘲るやうな聲を上げて、彦九郎は呟きました「わ？」

あまりの意外なその言葉に、嘉膳は思はず問ひかへしました。

「何と仰せられます」

「いや、これで證據となる書類はすべて破りすてゝしまつたと申すのぢやよ」

彦九郎は。うつろな聲で云ひましたが、ふいに言葉をかへて。

「嘉膳どの、すまぬが、水を以つて來ては下さらぬか息がこう切れるやうで……」

「……」

「あ、それはいけませぬ」

嘉膳は醫師、俄かにあはてゝ。

「これよ、誰か水をもて」と呼はりましたが、誰もいらいろものがありません……。

「ないッ!!みな、どこへ行つたのぢや」

いらだたしそうに嘉膳はつぶやきましたが。

「うむ、わしが行て參ります。しばらくお待ち下さいませ」

からいつて立ち上りました。

「たゞ、お使ひだてして濟まぬな」

「いゝね、とんだことでございます」

彦九郎の言葉を聞きすてながら臺所の方へかけて行きましたが、合併、一人の女もゐあはしません。

「はて。茶碗は？」

戸棚のあちこちを探してやつと見つけた茶碗は、取り出そうとしたとき。誤つて土間へ落してしまいました。

はつと思ふ間もなく、チヤリンと音してこはれてしまつた氣配―。

「えいッ！何としたことッ！」

茶碗のこはれからふと或不吉な豫感を覺ねて、嘉膳はいまいましそうにつぶやきました。

が、漸く今一つの茶碗を見つけて、水を滿たすと、虫が知らすとでも云ふのか妙な不安におびね乍ら彦九郎の待つてゐる部屋にいそぎました。

「……」

たとなねもせず、障子の引き手に手をかけて、一目室内に目を放つたとき。

「あッ！」

思はず、嘉膳は叫びました。

「高山殿、どうなされたのぢや」

かけよつて見るまでもなく、衣の襟もひろげもせず腹まッ二つにかつさばいてゐるのです。

「早まつたことをなされましたなア」

思はずかけよると、ひしと彦九郎の身を抱き上げました。

「とんだ迷惑をかけて、申しわけムらぬ」

その深傷にもめげず、きつぱりとした聲で云ひました。

「いや、その仁義には及びませぬが、これはまたどうなされたことでござります……」

嘉膳は、おろ〳〵聲で云ひました。

「いや、どうしたのでもござらぬ」

彦九郎は、寂しく微笑して。

「たゞ、この斂が狂つたまでゞござるよ」

からいつて、靜かに目をとぢました。その合されたニつの瞼の間からは一ぱいに涙があふれ出て居りました。

「では、嘉膳どの、拙者はこれにておいとま申す。貴殿は御醫者でござるそうなが、かまいて拙者の傷に手あては下さらぬやうに……」

からいひたへたかと思ふと、やがてはりつめた根も精もつきはてたのか、まもなくあゐなく息はとだえて逝きました。

これ時正に、寛政五年六月二十七日のことでありました。（完結）

名畫に酷暑なし

俠骨　**石松の最後**　全
松竹阪妻プロ特作品……阪東妻三郎・森靜子　主演
文久二年――淸水港の次郎長が公儀のお咎めが罷けに時分、次郎長が腕と頼める…森の石松が見るも悲壯無慘なる未だ世に傳ひられぬ石松の最後と忠實に描けるもの。

昭和　**新家庭講座**　全
日活大作・新婚映畫の一種の一▼主演　小杉勇・夏川靜江
金は親爺の懐ろにいくらでも有るものだと考へて居る男が、或る女と結婚した新家庭をもつとそうはいかないでも仲々遊びはやめない。こんな人を夫にもつた奥樣としての方法

長屋騒動　**腕一本**　全　猛演
日活楢自・太秦自慢の名作　四郎改メ　新妻英助・伏見直江
靜かに更ける大江戸！町――所に深川の一隅名物男、拳骨の鐵五郎が涙が出る樣な痛快な大活躍、其又變り者にスリの仁銀がポーとくる愈々狸長屋の大事件、惡與力花田の陰謀を破つて凱歌を擧げる其中に、七年振りの對面に泣いて喜ぶ……親子がある。

十七日寫眞替　日活　松竹　**平館**　電話六四六

磐城盆唄懸賞募集

締切・七月二十日
發表・同月二十八日
用紙・官製ハガキ一葉三句以内但何葉も投稿スルコトヲ得
宛名・平町田町一六石坂方田町青年分團盆唄募集係
注意・歌詞ニハ振假名ヲ附ケルコト、住所氏名ハ明記スルコト
賞金・一等五圓一名、二等參圓宛貳名、三等壹圓宛五名、佳作五十錢宛十二名　選外佳作手拭一本宛三十名

主催　田町青年分團
後援　磐城時報社　常磐毎日新聞社　磐城新聞社

銘酒　**清世界**
石城小名濱港　**清水屋**
各炭鑛御用達　**小野晋平**　電話六番

貸切は
磐城タクシーへ
電話四五五四番
平驛前

吉田眼科病院
平町紺屋町

夏向の
小供洋服生地と
新柄レース　一寸巾から二尺巾まで
澤山入荷致しました
婦人手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇

大販賣店　平町五丁目角　**山野邊藥局**

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅鐵
(久)釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番・一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

品質本位
蜂ブドー酒

佛國の葡萄

佛國ボルドー産の最高原料を以て獨特の醸造と傳來の技術の下に醸られた美味と滋養の蜂ブドー酒は人生になくてならぬ健康長壽の源泉と認められたものであります

發賣元　東京本町　近藤利兵衛商店
醸造元　東京京橋　神谷傳兵衛本店

4—67

小名濱修港の繰上げ實施陳情
失業問題の解決にもと 鈴木町長出縣

昭和三年重要港灣に指定され次いで四年度から六ヶ年の繼續事業として工事を實施することになつてゐた小名濱港修築の件はその後政府の財政緊縮の結果、昭和四年度から同十二年に至る九ヶ年度に繰延べられ而も初年度並に本年度に於ては極めて少額の經費を計上せるに止り、實質に於て工事として何等施設をなし得ざる狀態にあるので、叢に同港修築計劃に依つて區劃整理を樹てた小名濱町は諸般の計劃に一大頓座を來し全く見當がつかず五里霧中に彷徨してゐる狀態にあるが、一面同港の修築は今や社會問題として深刻な叫びを高唱しつゝある失業問題の解決にも益する處甚大なるものあるとなし、九ヶ年繼續事業を五ヶ年程度に繰上げ急速實現を取り計らつて貰ひたいと十六日同町長鈴木榮氏から小柳知事に對し主務省に陳情方を懇請して來た

平上水道の水源地を
委員等視察

炎天暑さと使用者の激增で貯水地に一大變化を來たした平町上水道は後十日此の運轉が斷水の外ないので水道部では俄かに狼狽し既報の如く十六日水道使用者全部に對して水道浪費の防止を注意したが更に委員連は十七日水源地を視察をなし斷水の豫防について協議を進める筈

勿來關へ縣道開設確定
既に敷地測量着手 自動車交通も成る

石城郡勿來町勿來驛より勿來の關に通ずる直通縣道の設定については既報の如く各關係區民が協議の結果町のすを經て縣に陳情した結果既に豫算に計上されてゐるので早速平土木監督所に命じ實地測量をなさしめつゝあり實現の域に達したので非常に喜ばれてゐる關跡までは平地より約二百五十尺の高さがあるので自動車の往來が出來得る程度の勾配となるか否かを懸念されてゐたが實測の結果驛前より一千百間の距離あるため往來可能だけの傾斜を保つに差支へない事が判明した

片倉製絲が八月一日より
操業一時間短縮 絲價慘落から

平町片倉磐城製絲場では糸價慘落の影響を受けていよ〱八月一日頃から更に操業を一時間短縮し生產の制限を計ることゝなつたが右について辰野工場長は語る

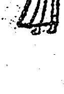
現在の製糸業は一梱で三百圓位補給しても尚且欠損を招く程の窮狀にあるのだから當然事業を短縮するとか、乃至は一時中止するより外に良い方法はないのである、本工場などはそうした、災厄は出來る限り招かぬつもりで常に細心の注意を拂つてゐるが然し大勢がそうした途を取ると云ふのであるならば結局それに順應することになるであらう云々

世のジャズ化に醉ひ 變つてきた不良
豊かな生活者多く 夏期を横行

これからの夏の盛り場—たとへば、緑日だとか、夜店だとか、海水浴だとか、溫泉だとか、さう云ふ所は毎年不良少年少女のはびこる所で、年頃の少年少女を持つ親達は、それら不良の徒を剩せられないやう、よく注意しなければなりませんが、しかし一方、自分の子供ばかりはと思つてゐるうちに、いつか立派な不良になつてゐると云ふ例も非常に多いのです、殊に、この一二年來の傾向として、相當の家庭及び家庭的に何等の不遇もない少年少女に不良のふえて來たことで、これは家庭教育のゆるんだ證據と見ることが出來ますと云ふのは、從來不良少年少女はとかく親のない子供とか、繼父母によつて育てられた子供とか、學校へも通はせて貰へないやうな何か家庭的に不過な少年、少女で、不良になつたとて無理もないと思ひる様な、ある意味では氣の毒な少年少女が多い傾向があつたのですが、昨年頃からはガラリと變つて、兩親も立派に揃ひ家庭の生活も不自由なく、親たちからチャンと學資を貰つて通つてゐる學生とか或ひは既に學校を終つて何かの職についてゐるものが……そう云つたものに不良性のものがふゑて來たのです。それから次にふゑたのは商店の小店員に不良のものゝ出て來たことで、今それを昨年の統計に見てみますと。

父母の立派に揃つて養育されてゐるものが、全體の七割強といふ多數をしめ、孤兒は小數です、即ち理代の不良少年少女はむながちに家庭生活が冷たく不幸であるから生れるのではなくし却つて兩親が揃つて何不自由なく育てられし居乍らその育て方の誤り又は不注意に依つて、生れるものゝ方が遙かに多いといふ憂ふべき傾向を見せてゐるのです、これは現代の中流階級の家庭生活、家庭教育がゆるんで來た證據で、こうした點は大いに親達の注意すべきことではないでせうか殊に小店員等に不良の多くなつたことは現在でも彼等小店員の多くは月一圓か一圓五十錢といふひどい手當でその中から理髪代も鼻紙代も出すといふみぢめな生活を強ひられゐるにもかゝわらず、一方社會にはますゝモダン化、ヂャズ化して彼等の靑春の血をもやさせる結果知らず識らずそれに誘惑されて不良になる

と云ふのであつて、一般工場勞働者少年工などとは違つて、すつかり社會の進歩からたいて行かれた彼等の現在の生活がむしろ如何にみじめなものであるかと云ふよい證據になるのです。



小田坑の馘首坑夫に 百圓づゝ給與
不穩の形成更らになく 復舊は今一ヶ月か

遂に從業員の馘首を斷行した石城郡好間村小田炭礦では十六日馘首坑夫に對し糸拂ひ賃銀とも何れも百圓づゝを支拂する旨申し渡したが目下の所では不穩の擧に出づる形勢はないもの如く觀測されてゐる、左について同炭礦々業所の松本所員は語る

係のものが留守なので詳しくは申しあげられぬが當炭礦はこの間の出水で再起する能はずと自他共に思つた程で礦夫約六十名位の解職も止むを得ない何せ一ヶ月わづか三萬圓位の收入で毎月二三千圓位の缺損を見てゐるのだから解雇者に對して大した手當も出來ず規定の十四日分を支給した、解雇された者は差當り困るであらうが致し方ない第二次整理はないかと思ふが判然判らぬ、實情がその通りなのだから解雇された者が騷ぐ筈はないと思ふ今回の整理で從業員は全部で五百六十餘名に減じたなほ過日出水した新斜坑の復舊迄には排水及落盤個所の修繕で今一ヶ月位は要するであらう云々

氷滿載のトラックが
自轉車と衝突 小僧重傷

平町字五丁目自動車營業渡邊雄方運轉手野勢淺次郎(二三)は十六日午前七時ごろ平製氷會社から氷を滿載第三六五號貨物自動車を運轉して四丁目街路に差掛つた際前方から疾走して來た四丁目鈴木與一方雇人今井金五郎(二六)の自轉車に正面衝突し金五郎は轢き倒され右肩を骨折、全治四週間の重傷を負つたので平署で事故原因取調中

夏期の傳染病 益々猖獗
四ケ月に百五十名 平署管內の調べ

四月より七月十七日までの平署管內傳染病發生數は百五十名であるが愈々流行期に入つたので平署では傳染病豫防ポスターを配付して豫防奬勵に全力を盡してゐるが今町村別に區別すると次の如き狀態である

チブス五十五件死亡十二名全快二十六名で內平十二名江名三名赤井二名內郷六名磐崎十七名湯本十名上小川二名飯野一名神谷二名ヂフテリヤ四十八名で死亡三名全快四十二名內小名濱八名平七名磐崎四名內郷七名飯野三名湯本五名好間一名鹿島一名夏井一名神谷一名平窪二名長戶三名赤井二名豐間一名下小川一名猩紅熱平一名セキリ五名で死亡一名全快四名內好間四名平一名疫痢六名で死亡六名平三名內郷一名赤井一名好間一名である

犯人逮捕で
平署から表彰

磐城炭礦會社員皆川二郎、石田秀二、志賀安三名は十七日平署から四月一日警察官に應援して私文書僞造行使犯人を逮捕したること殊勝さあつて金一封を授與された

行方不明で 搜查願

平町杉平伊藤榮(三六)は此度本籍である安積郡日和田町清水で簡閱點呼を受けなければならぬ事になつてゐたが榮は三年前より行方不明となつてゐるので同人の兄である福島市清水坂伊藤浩一より今十七日平署に搜索方願ひ出た

人騷がせの 卒倒
之れで二回目

十六日平白銀町北辰妙見神社の祭典は近頃に無い雜踏を呈したので露店商人や老人達を喜こばせたが九時半頃長橋町淸水庄作(四五)は突然腦溢血の爲め昏倒し黒山の人だかりをなしたが淸水は一矢天野神社に於ても腦溢血で昏倒したが幸にも一命をとり止めたらしい

平上水道の 認可近し
十七日土木委員會で協議

平上水道施設も愈々認可確實となり近日中に認可の通知に接する筈であるが現在簡易揚水機を使用してさいも尚水不足を叫ばれ非常に不便を來して居るので平町役場では認可通知あり次第早速工事に取掛り來年夏には間に合はすべく今十七日午後一時より平役場會議室に土木委員會を開き施設工事に關し協議を遂げる

旅行通信

伯林に於ける第二回世界動力會議は大成功であつた日本からも偉い人が澤山來られた第三回は一九三五年に米國で開くことに決議せられた僕は引續き修學旅行團に加入して西獨逸の工業を視察して居る、淺野老人はスカンヂナビアに旅行せられた

六月三十日 獨逸ベルリンにて 吉本生

磐城新聞社御中

四倉海岸に 警官派出所
十七日から

いよ〱海水浴季節となつたので四倉署に於ては本月十七日より海岸海水浴場に警官派出所を設け浴場の取締りに當る事になつたと

母が大病と僞り 少女を連出す
湯本町の周旋屋が 驛長に救はる

石城郡內郷村字宮澤坑夫神永尾太郎妻ツギは今から十餘年前に前夫永島某に死別しその後現在の神永と一緒になつたのであつたが神永と一緒になる當時前夫永島との間に生れた娘キイ(一五)を邪魔になるので埼玉縣川越町の或人に預けその儘今日まで音信を絶つてゐたところ去る十四日川越町のキイのもとに石城郡湯本町上町人事周旋業佐藤庄五郎(三八)と稱する男が訪ねゆき「自分は內郷村の神永に頼まれて來たのだがキイの母ツギが大病でキイに會ひたいと言ふから一緒に行つて貰ひたい」と言ふのでキイが同人と一緒に十五日朝湯本町の同人宅に來たが佐藤は疲れてゐるから等と稱し湯本に着いてから數時間過ぎるも母のもとに連れて行つてくれないのでキイは恐ろしくなり同人の隙を見て逃げ出し金もないので無切符でひそかに列車に飛び乘り同日午後四時頃茨城縣松原驛まで來たところ係官に發見され松原署の取調べの結果前記事情を申し立てたのでその旨直に平署に照會して來た同署で目下眞相調査中であるが湯本町には右の如き周旋業はなくキイの毋ツギが病氣の事實もなく或は何者かが誘拐の目的で行つたものでないかと思はれる尚松原驛長はキイに同情しキイが親元より川越に行きたがつて居るので事情が判明次第川越まで旅費を與へてやると言つて居る

下小川の 火事
積んだ麥藁から

十六日午後十一時頃石城郡下小川村中島草野竹治郎方廐舍より發火し廐舍一棟價格(三十圓)を全燒し零時十分頃鎭火したが原因は竹治郎が同日麥燒をしその儘麥藁の上に積み重ねて置いたがそれから發火したものであると

兄に首を切られると 下小川の三十男が
平署に說諭願ひ

十七日午前十一時頃平署へ百姓風の男が「兄さんが私の首を切つて仕舞ふと言います首が無くつては話が出來ないから兄へ說諭をして下さい」と訴い出たが右は石城郡下小川村上平二十七根本金治(三八)で母である山口アキ(六九)と話して居ると兄山口秀造(三六)がヤキモチを燒いて私と母の首を切るつて言うのです、兄は肥後守の小刀を持つて居るんです首を切られゝば血が出る首が無くつては母とも話が出來なくなるからと言ふ事であつたが蓋しナンセンス中のナンセンスではあるまいか

淺野翁が 獨逸で 狹窄病
來三日歸國

本政雄四至本藤枝

磐城炭礦社長淺野總一郎翁は一ヶ年間滯在の豫定で去る三月歐米視察の爲め出社したが獨逸ベルリンに於て突如食道狹窄に冒され靜養中なるが今後病勢に變化なければ米國を橫斷の上サンフランシスコより龍田丸で來月三日橫濱に上陸歸國する豫定である

磐東銀行
三分配當

植田町磐東銀行では今期配當案に對し重役會を開いた結果時節柄從來より減配すべきが當然であらうと財產を確實ならしむるため滯貸金及有價證券並に營業用什器を少く見積り一萬一千七百餘圓を償却する事となり前期の五分より二分を減じ三分配當と決した

四倉町會で 漁港委員を
增員決議

四倉町々會は去る十五日開き左の二件に付き滿場一致を以て可決決定せられたり

一、四倉漁港實行委員六名を十二名增員し十八名とする事

二、漁港に關する促進運動のため出京又は上京の場合の旅費の四割五分を減ずる事

石城唱歌 遊戲講習

石城郡教育會主催唱歌遊戲ダンス講習會は來る八月二十五日から二十七日まで三日間平第一小學校に於て開催するが講師は左の如し

△東京市視學田村虎藏△東京女子音樂學校教授山

石城體育講習

石城郡體育研究會主催八月四日から七日まで平第一小學校で體育講習會を開催講師は

富田體育主事、東京高師研究科靑山正夫、女子師範教諭佐藤寅四郎、福島高女教諭菅家和一の諸氏

◎コークス大々的値下斷行……

從來一俵金壹圓貳拾錢ノ東京瓦斯コークスヲ金九十五錢ニ値下致シマシタ

一家ノ經濟ハ臺所カラ

◎使へ馴レバコークス程經濟ナモノハアリマセン

◎使用法ハ參上御說明申上マス

配達迅速御注文ハ一俵ヨリ御屆ケ致シマス

昭和五年七月一日

電話二二三七番 平驛前

阿部石炭商店

內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

高久病院

平町田町 電話五一三番

醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽滑 藥劑士 佐竹菊雄

夜間診療

胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部

梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部

松村胃腸病科醫院 (平南町電話一〇七番)

內科、小兒科 市原卯太郎

外科一般、婦人科 市原陸郎

皮膚、梅毒、淋疾病 市原三三男

平町田町本通

市原醫院 (入院隨時) 電話一一四番